

随 筆

津市白山町家城の病院

飯 田 良 樹 (久居一志地区)

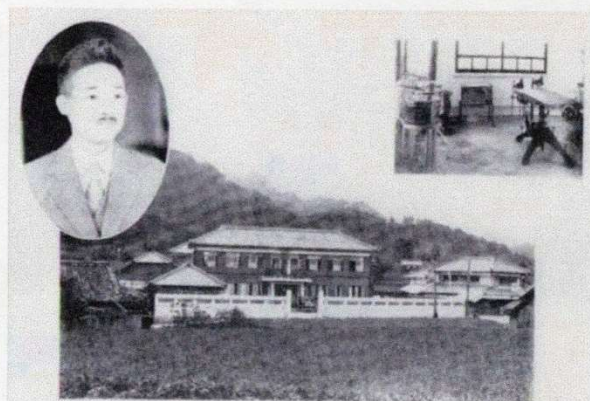
以前から名松線家城駅を降りると前の道路正面左にあるコンクリート塀と門が気になっていた。



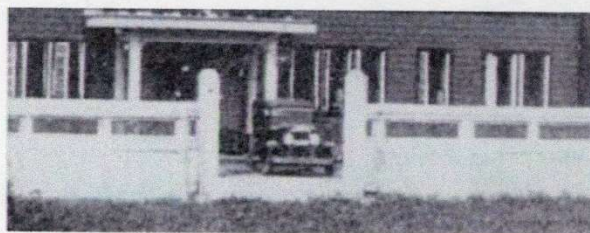
とことめの一志図書館職員 新地義孝さんが白山町の方なので、お聞きすると、以前ここには藤岡病院があったとの事であり、わざわざ津法務局で旧台帳写しを取り寄せていただいた。

南家城897番地、昭和5年8月12日北家城の藤岡寛一所有権取得となり、昭和15年5月16日東京市渋谷区 牧野平治郎所有権取得となっていた。

たまたま他の用件で元県史編纂室 吉村利男さんとお話ししていたら、藤岡病院は『三重県 人物と事業』1931年伊勢新聞社発行に掲載されていたよと、コピーを頂いた。



院長 藤岡寛一      藤岡病院全景      手術室



藤岡病院全景の塀と門を拡大すると現存と一致する。昭和5年の病院建物はなくなっているが良く残っていたものだと感心した。後で南家城の岩脇欣示さんに聞いた話では、塀の空いている所には鉄柵がはめ込まれていたが、太平洋戦争末期に軍に供出したとのことである。

『三重県 人物と事業』の解説によると、

藤岡病院は一志郡家城村字南家城にあり。昭和5年7月に開院する（取得年月とはずれがある）。院長 藤岡寛一氏は産婦人科及び内科を専門とする名医にして、同氏の診療を乞わんとする者は遠近を問わずして来り、常に早朝より門前に集まり開門を待つ。同病院舎屋敷地総面積500余坪、建坪188坪、病室18室にして職員数名、看護婦10数名を置き、其の他諸般の設備完成す。近時省線名松線の開通に依り、交通の便又頗るよし。

また『三重一志 白山町文化誌』昭和48年色井秀議編によると、

昭和11年4月12日一志郡家城・境両村連合の産業組合法により、昭和10年に津市へ移転して空家になっていた藤岡病院の病舎を借り受け、院長及び看護師2名事務員1名をもって「保証責任利用組合連合会 愛生療院」設立。

藤岡病院は昭和5年から昭和10年と短い期間、産婦人科病院として開業し、あとを継承した愛生療院も残念ながらもわずか1年で閉鎖された。

『白山町文化誌』では、愛生療院が閉鎖されたが、これがその後一志病院を設立される捨て石となったとつづっている。

では、一志病院は現在白山町南家城616にあるが、一志病院の沿革をみると、

1945年（昭和20年）1月18日 日本医療団三重県支部の家城奨健寮および家城診療所として開設、のちに日本医療団一志地方病院となる。

1948年（昭和23年）11月1日 日本医療団の解散に伴い三重県に移管、三重県立一志病院となる。病床数38（普通26、結核12）。

1954年（昭和29年）12月7日 現在地に木造平屋建ての病舎を新築、竣工式を挙げる。病床数60。

昭和29年に現在地616に木造平屋を建てたのでそれまでは？と疑問が湧いたので、書籍を調べても番地まで書かれておらず、地元前出の岩脇欣示さんにお尋ねした。

幼少期に良く診療を受けた県立一志病院は現在の航空自衛隊白山分屯基地家城連絡所1088-1と教えて頂いた。



では、現在の場所、白山町南家城616への経緯は『白山町文化誌』によると以下のものであった。

現在の県立一志病院や白山高校のある場所は、昭和15年桑皮や藤蔓などを原料とした繊維品製造の大島産業株式会社工場で昭和19年に国策繊維有限公司と名前を変更して軍需工場となった。戦後はその役目が終わり、昭和23年の火災によって空地となった。昭和25年に一志病院の敷地として婦人科が新設され、さらに昭和29年～30年には結核病棟・伝染病棟が出来た。なお白山高校は昭和23年地元の要望で久居高等学校（現久居農林高校）の家城分校として旧愛千野青年学校を使用して発足し、昭和30年3月現在地に移り昭和34年4月から三重県立白山高校となる。

以上、家城駅前のコンクリート塀の話から藤岡病院・愛生療院・県立一志病院と家城の病院を書いた。家城には私の母校奈良県立医科大学先輩の井 秩章先生が「いのもと医院」を開業されておられて、今はご子息の井 忠明先生が継がれておられる。

